
[成果情報名] イネウンカ類を捕食するカスミカメ類の圃場における発生実態
[要約] 水田において、ムナグロキイロカスミカメはセジロウンカの、カタグロミドリカスミカメはトビイロウンカの捕食者である。これら 2 種の密度は県北西沿岸部の二丈町では内陸部の筑紫野市や飯塚市等に比べて高い傾向にあり、トビイロ密度は前者では後者に比べ低く抑制される。

[キーワード] イネ、イネウンカ類、カスミカメ類、捕食者

[担当部署] 病害虫部・虫害チーム、病害チーム

[連絡先] 092-924-2938

[対象作目] 水稲

[専門項目] 病害虫

[成果分類] 生理生態

[背景・ねらい]

カタグロミドリカスミカメ（以後カタグロ）はイネウンカ類と同様に海外飛来性で、トビイロウンカ（以後トビイロ）の卵を捕食する有力な天敵として知られている。しかし、カタグロと同様に海外飛来性のムナグロキイロカスミカメ（以後ムナグロ）については、カタグロと同様にイネウンカ類の卵を捕食することが室内実験等で知られていたが、圃場での生態についてはほとんど知られていない。そこで、これらのカスミカメ類の本県における発生実態を明らかにするとともに、減農薬栽培技術開発の基礎資料とする。

[成果の内容・特徴]

1. 無農薬栽培圃場においては、ムナグロはセジロウンカの発生消長と同調して増減するが、トビイロの増加期にはほとんど増加しない（図 1）。
2. 無農薬栽培圃場においては、カタグロはセジロが発生の主体の時期にはほとんど増加せず、トビイロの密度増加期に増加する（図 1）。
3. カタグロの密度はウンカ類の飛来頻度の高い本県北西沿岸部の二丈町では高く、筑紫野市や飯塚市のような内陸部では低い（図 2）。ムナグロについても同様である（データ略）。
4. カタグロ密度が高い地域では低い地域に比べ、トビイロの密度は低く抑制される（図 3）。

[成果の活用面・留意点]

1. 県内におけるイネウンカ類天敵の発生実態として普通作物病害虫防除の手引きの付属資料に掲載する。
2. 天敵利用によるイネウンカ類防除技術開発の基礎資料となる。
3. カスミカメ類の発生実態は、ムナグロでは 8 月中旬、カタグロでは 8 月下旬～9 月上旬（第 2 世代）または 9 月下旬～10 月上旬（第 3 世代）等の密度の高い時期に調査する。

[具体的データ]

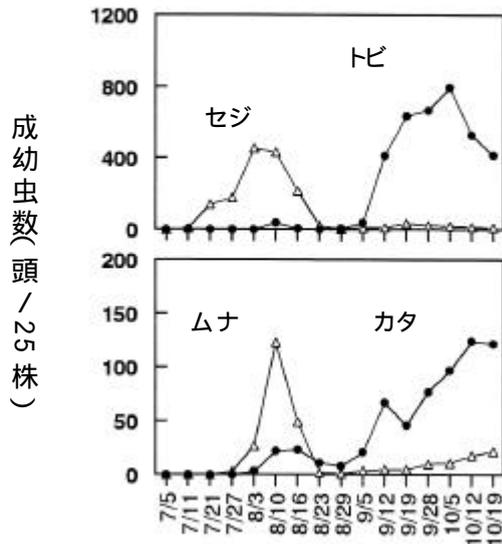


図1 イネウンカ類と捕食性カスミカメ類の発生消長(2006年、二丈町)．セジ:セジロウンカ、トビ:トビイロウンカ、カタ:カタグロミドリカスミカメ、ムナ:ムナグロキイロカスミカメ．

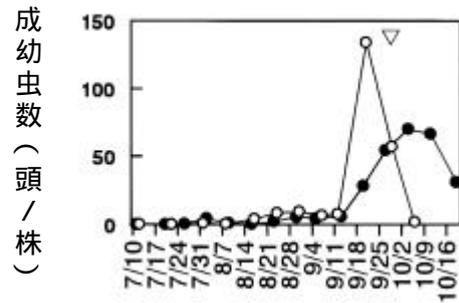


図3 カタグロミドリカスミカメの発生の多い二丈町(○)と少ない飯塚市筑穂(△)におけるトビイロウンカの発生消長の比較(2005年)．○:筑穂,薬剤散布．

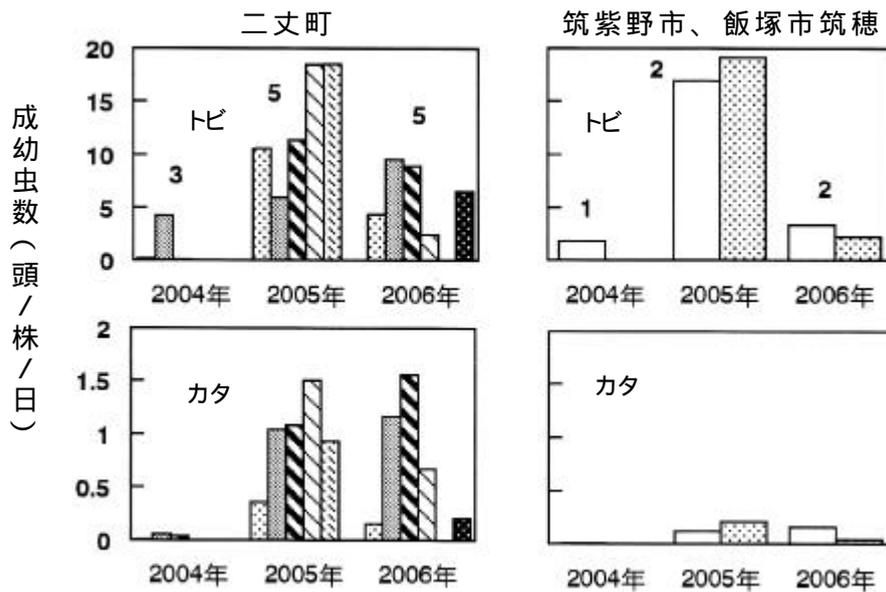


図2 沿岸部の二丈町と内陸部の筑紫野市、飯塚市筑穂町におけるトビイロウンカ(トビ)とカタグロミドリカスミカメ(カタ)密度の圃場間差．図中の数字は調査圃場数、同一年次の異なる棒グラフは圃場の相違を、異なる年次の同じパターン棒は同一圃場であることを示す．

[その他]

研究課題名: ウンカ類の捕食性天敵カスミカメ類の評価
 予算区分: 経常
 研究期間: 平成18年度(平成16~18年)
 研究担当者: 中村利宣